

ごめんねチロ

主題名 命あるものを大切に

内容項目 **生命の尊さ**
生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること

ねらい 生命の尊さについて理解し、生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする態度を育てる。

主題設定の理由

指導内容について

本指導内容は、生命ある全てのものをかけがえないものとして尊重し、大切にすることに関するものである。

第3学年および第4学年の段階になると、現実性をもって死を理解できるようになる。そのため、特にこの時期に生命の尊さを感じ得るように指導することが必要である。生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育てられている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きるこ

とのすばらしさについて考えたりすることが大切である。あわせて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。

自分だけでなく、周りの他者や自然、小動物も皆かけがえない生命をもっており、必死に生きている。他者が自分の生命を支えてくれたり、自分が他者の生命を応援したりすることもある。だからこそ、生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする態度を育てることが大切である。

児童について

4年生は、様々な経験から生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができている。

しかし、生命の終わりである「死」について真剣に考えるという経験は少なく死の重さを実感できている児童は少ない。

そこで、この時期に「死」を通して「生命」につ

いて考えさせることは意義深いことといえる。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりの中で、生きることのすばらしさや生命の尊さを考えさせたい。また、その自覚を深められるように指導することが大切である。

教材の特質について

本教材は、飼っている子犬の死と向き合う登場人物の心情に共感することを通して、ねらいに迫るものである。

母親との約束通り子犬の世話をしっかりとする「ゆうと」。しかし、子犬は病気になってしまう。子犬の様子がおかしかった「あの日」のことを母親に

言えないままであることの真実と葛藤しながら、ゆうとは死にゆく子犬に最後まで向き合うという話である。

登場人物の心の中の葛藤や行動に十分に共感させることで、生命あるものを大切にしている態度を育てていくことのできる教材である。

出典：宮崎県小学校教育研究会道德部会

評価のポイント

- ①生命の尊さについて、多面的・多角的に捉え、考えを深めることができたか。
- ②生命の尊さについて理解し、生命ある全てのものを大切にしようとする気持ちを高めることができたか。

導入

展開

終末

学習活動

指導上の留意点

1. 学習問題を設定する

「命」に対するイメージを発表し合う。

- ・大切
- ・生きているということ
- ・一つしかない

- ・自分たちの生活から想起させることによって、ねらいとする価値への関心が高まるように、「命」に対するイメージについて発表し合う場を設定する。

「命」について考えよう

2. 教材「ごめんねチロ」を読んで話し合う

(1)教材文の感想を出し合い、話し合うことの方方向性を決める。

- ・「ごめんね。ごめんね。」と泣いているゆうとの姿が心に残った。
- ・一晩中チロのお世話をしているゆうとのチロを思う気持ちが分かる。
- ・チロがはいたときに早く病院に連れて行ってあげるとよかったのに。
- ・きっとゆうとは後悔していると思う。

(2)ゆうとの気持ちや考えについて話し合う。

- ①チロが家にやってきたとき、ゆうとはどんな気持ちだったでしょう。
- ・うれしいな。
- ・しっかりお世話をするぞ。

②動物病院につれていったときのチロを見て、ゆうとはどんなことを考えたでしょう。

- ・自分のせいかもしれない。
- ・「あの日」のことをすぐに言えばよかった。

③冷たくなったチロを見て、ゆうとはどんな気持ちだったでしょう。

- ・大切にしていられなくてごめんね。
- ・ぼくのせいで死んでしまったんだ。
- ・やっぱり「あの日」のことをすぐに言えばよかった。

(3)「命の大切さ」について話し合う。

④どんなときに命の大切さを感じますか。

- ・命は一つしかない。
- ・生き物はみんな「命」をもっている。
- ・小さな「命」も大切にしなければいけない。

3. 学習のまとめをする

今日の学習を通して考えたことを書く。

- ・気になる場面について感想を語らせながら、子どもたちの発言を教材の中の話し合いしたいこと（中心発問）につなげ、話し合いの方向性を定めていく。

- ・子犬を飼い始めてしっかりとお世話をする「ゆうと」。元気のないチロに気付く「ゆうと」。死にゆくチロのお世話をする「ゆうと」。それぞれの場面での「ゆうと」の気持ちにも共感させたい。その上で、チロを亡くしてしまった「ゆうと」の気持ちについて深く考えさせる。

- ・「ゆうと」の思いを十分話し合った上で、改めて「命の大切さ」を問う。生命あるものを大切にすることについて考えを深めていく場につなげていく。

主体的・対話的で深い学びのために

- ◆主体的な学びとなるように、中心発問となる「話し合いしたいこと」は、子どもたちの発言をつなげてつくっていく。
- ◆多面的・多角的に考えていくことができるように、グループでの話し合いの場を設定する。

評価 生命の尊さについて理解し、生命ある全てのものを大切にしようと考えを深めることができたか。（発言、記述）

- ・本時の学習を通して考えたことを書く活動を設定し、価値に対する自分の思いの変容や日常の自分を見つめることができるようにする。

ごめんねチロ



板書

板書例と指導の流れ

授業の導入と話し合いを終えてからの、「命」に対する考えの変化が分かるような板書の工夫をしよう。



授業の流れ

(1) 自分たちの生活から想起させることによって、ねらいとする価値への関心が高まるように、「命」に対するイメージについて発表し合う場を設定する。

(2) 気になる場面について感想を語らせながら、子どもたちの発言を教材の中の話し合いしたいこと(中心発問)につなげ、話し合いの方向性を定めていく。

(3) 子犬を飼い始めてしっかりとお世話をする「ゆうと」。元氣のないチロに気付け「ゆうと」。死にゆくチロのお世話をする「ゆうと」。それぞれの場面での「ゆうと」の気持ちにも共感させたい。その上で、チロを亡くしてしまった「ゆうと」の気持ちについて深く考えさせる。

(4) 「ゆうと」の思いを十分話し合った上で、改めて「命の大切さ」を問う。生命あるものを大切にすることについて考えを深めていく場につなげていく。

授業を活性化させるコツ

◆改めて考える場を大切に！

展開後段では、「命の大切さ」について改めて考えさせ、自分との関わりで道徳的価値を語り合う場

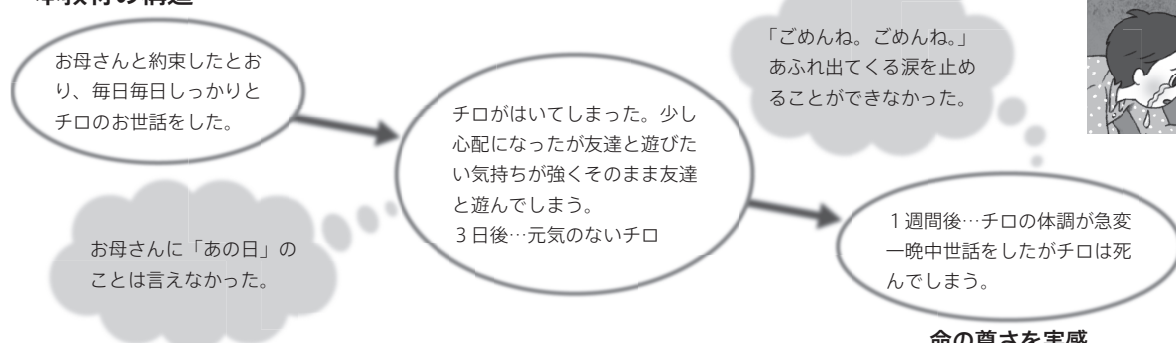
を重視していく。教材文を用いた話し合いを通して、「命」に対する、認識や考えが再構成されるような授業展開を意識していきたい。



本実践の工夫

教材の吟味・具体的な活用方法

本教材の構造



命の尊さを実感

子犬を飼い始めてしっかりとお世話をする「ゆうと」。元気がないチロに気付く「ゆうと」。死にゆくチロのお世話をする「ゆうと」。それぞれの場面での「ゆうと」の気持ちにも共感させたい。その上で、チロを亡くしてしまった「ゆうと」の気持ち、命の尊さについて深く考えさせる。

「考え、議論する」授業のポイント

自己を見つめさせるために

「命」についてイメージできることを発表させよう。

児童が授業の入り口でもつ問題意識を大切にしたい。日常生活や教材から問題点を見だし、自ら問題意識をもって、自己をふり振り返りながら「考え、議論する」ことを意識していく。

道徳的価値を理解させるために

登場人物の行為の背景にある思いについて考えさせよう

登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合うことで、より深く道徳的価値について考えることができる。「なぜ～」という客観的な視点から考えさせることも効果的である。

多面的・多角的に考えさせるために

教材での話し合いを経ての「命」に対する考え方を話し合わせよう

話し合いを経て価値に対する新たな見方が生まれる。授業の入り口での自分の考え方や教材での話し合いを経ての自分の考え方を比較しながら、価値に対する見方を広げていく。

自己の生き方についての考えを深めさせるために

今日の学習を通して考えたことを書かせよう

本時の学習を通して考えたことを書く活動を設定し、価値に対する自分の思いの変容や日常の自分を見つめることができるようにする。

指導内容の系統性・発展性、各教科等との関連

道徳科（4年）——生命の尊さ

- 3 「おばちゃん、がんばれ」（おかげさまの命）
- 22 「えがおのクリニックラウン」（笑顔のチカラ）
- 23 「わたしのいのち」（せいいっぱい生きる）
- 「ごめんねチロ」（命あるものを大切に）

体育科（保健）——育ちゆく体と私